

1 サポートされているトリガー関数

トリガー条件式の中でサポートされているすべての関数を、次に示します。:

▼	関数	パラメータ	サポートされている値のデータ型
定義			
	abschange	無視	浮動小数、整数、文字列、テキスト、ログ
	<p>最新値と前回値の差を、絶対値で返します。</p> <p>数値の場合: (最新値 - 前回値)の絶対値 = abschange (5 - 1)の絶対値 = 4 (1 - 3)の絶対値 = 2 (-2.5 - 0)の絶対値 = 2.5</p> <p>文字列の場合: 0 - 値が等しい 1 - 値が異なる</p>		
	avg	sec または #num	浮動小数、整数
	<p>期間の平均値。最初のパラメータで期間を秒単位で設定するか、収集した値の数（ハッシュマーク#を先頭に付けます。例えば#5 - 5つの直近値）で設定します。</p> <p>この関数は、2番目の選択可能なパラメータtime_shiftを受け付けます。現在の平均値と、time_shift秒遡った平均値を比較する必要がある場合に便利です。例えば<code>avg(3600,86400)</code>は、1日前の1時間の平均値を返します。</p> <p>パラメータtime_shiftはZabbix 1.8.2以降でサポートされています。</p>		
	band	sec または #num	整数
	<p>アイテムの値とマスクとの「ビットAND」の値を返します。</p> <p>最初のパラメータは、last関数の最初のパラメータと同じです（<code>sec</code> - 無視、または#num - N番目に直近の値）。</p> <p>2番目のパラメータはmask（必須）です。これは64ビットの符号なし整数（0 ~ 18446744073709551615）です。</p> <p>3番目のパラメータは、last関数の2番目のパラメータ（すなわち、time_shift）と同じです。</p> <p>この関数は、Zabbix 2.2.0以降でサポートされています。</p>		
	change	無視	浮動小数、整数、文字列、テキスト、ログ
	<p>最新値と前回値の差を返します。</p> <p>数値の場合: 最新値 - 前回値 = change 5 - 1 = +4 1 - 3 = -2 -2.5 - 0 = -2.5</p> <p>文字列の場合: 0 - 値が等しい 1 - 値が異なる</p>		
	count	sec または #num	浮動小数、整数、文字列、テキスト、ログ

▼	関数	パラメータ	サポートされている値のデータ型
定義			
<p>期間内に収集された値の数。最初のパラメータで期間を秒単位で設定するか、値の数（ハッシュマーク#を先頭に付けます）で設定します。</p> <p>関数は、2番目の選択可能なpatternパラメータ、3番目のoperatorパラメータ、4番目のtime_shiftパラメータを受け付けます。</p> <p>pattern: 整数アイテム - 完全一致; 浮動小数アイテム - 値が0.000001以内であれば一致</p> <p>サポートされている演算子*:</p> <p>eq - 等しい ne - 等しくない gt - より大きい ge - 以上 lt - 未満 le - 以下 like - 値にパターンが含まれれば一致</p> <p>band - ビットANDこの演算子は、Zabbix 2.2.0以降ではcountでサポートされています。 bandの2番目のパラメータは、2つの数字を「/」で区切って指定できます number_to_compare_with/mask</p> <p>countは、その値からmaskとの「ビットAND」を計算し、結果をnumber_to_compare_withと比較します。「ビットAND」の結果がnumber_to_compare_withと等しければ、その値がカウントされます。</p> <p>number_to_compare_withとmaskが等しければ、maskのみを指定できます（「/」なし）。</p> <p>*整数アイテム: 演算子 eq（デフォルト）、negtgeltlebandがサポートされています。 *浮動小数アイテム: 演算子 eq（デフォルト）、negtgeltleがサポートされています。 *文字列アイテム、テキストアイテム、ログアイテム: 演算子like（デフォルト）、eqneがサポートされています。</p> <p>例:</p> <p>count(600) - 直近10分間の値の数 count(600,12) - 直近10分間の「12」に等しい値の出現回数。 count(600,12,"gt") - 直近10分間の「12」より大きい値の出現回数。 count(#10,12,"gt") - 直近10個の値の中、「12」より大きい値の出現回数。 count(600,12,"gt",86400) - 24時間前までの直近10分間の「12」より大きい値の出現回数。 count(600,6/7,"band") - 直近10分間で、3つの最下位ビットが「110」（二進数）をとる値の出現回数。 count(600,,,86400) - 24時間前までの直近10分間の値の出現回数。</p> <p>#numパラメータは、Zabbix 1.6.1以降でサポートされています。</p> <p>time_shift パラメータと文字列の演算子は、Zabbix 1.8.2以降でサポートされています。time_shiftの使用例についてはavg関数を参照してください。</p>			
date	無視	すべて	
<p>現在日付をYYYYMMDD形式で返します。 例: 20031025</p>			
dayofmonth	無視	すべて	
<p>1~31日までの日付を返します。 この関数は、Zabbix 1.8.5以降でサポートされています。</p>			
dayofweek	無視	すべて	
<p>1~7までの範囲で曜日を返します。月曜 - 1、日曜 - 7</p>			
delta	secまたは#num	浮動小数、整数	

▼	関数	パラメータ	サポートされている値のデータ型
	定義		
	<p>期間内の最大値と最小値の差分を返します。 <code>max</code> - <code>min</code> 最初のパラメータで期間を秒単位で設定するか、収集した値の数（ハッシュマーク#を先頭に付けます）で設定します。 Zabbix 1.8.2以降では、この関数は、2番目の選択可能なパラメータ <code>time_shift</code> をサポートしています。使用例については <code>avg()</code> 関数を参照してください。</p>		
	diff	無視	浮動小数、整数、文字列、テキスト、ログ
	<p>以下の値を返します： 1 - 最新値と前回値が異なる 0 - それ以外</p>		
	fuzzytime	sec	浮動小数、整数
	<p>タイムスタンプ（アイテムの値）とZabbixサーバ時刻の差が N 秒以内なら1、それ以外なら0を返します。 通常は <code>system.localtime</code> と組み合わせて、ローカル時刻とZabbixサーバのローカル時刻が同期しているかどうかをチェックします。</p>		
	iregexp	1番目 - 文字列、2番目 - sec または #num	文字列、ログ、テキスト
	この関数は regexp に類似していますが、大文字と小文字は区別されません。		
	last	sec または #num	浮動小数、整数、文字列、テキスト、ログ
	<p>最新（直近）値。パラメータ： sec - 無視 #num - N番目の直近値。 想像がつくように、ここでの #num は他の多くの関数とは違った働きをしますので、注意してください。 例： last(0) は常に last(#1) と等しくなります。 last(#3) - 3番目に新しい値（3つの新しい値ではありません） この関数は、2番目の選択可能な time_shift パラメータ もサポートしています。例えば、 last(0,86400) は1日前の直近の値を返します。 ヒストリの1秒以内に2つ以上の値が存在する場合Zabbix は値の正確な順序を保証しません。 パラメータ #num は、Zabbix 1.6.2 以降でサポートされています。 パラメータ time_shift は、Zabbix 1.8.2 以降でサポートされています。使用例については <code>avg()</code> 関数を参照してください。</p>		
	logeventid	文字列	ログ
	<p>最新ログのエントリのイベントIDが正規表現に一致するかどうかをチェックします。パラメータで、POSIX拡張形式の正規表現を定義します。 以下の値を返します： 0 - 一致しない 1 - 一致する この関数は、Zabbix 1.8.5 以降でサポートされています。</p>		
	logseverity	無視	ログ
	<p>最終ログエントリの深刻度を返します。パラメータは無視されます。 0 - デフォルトの深刻度 N - 深刻度（整数Windows イベントログの場合に役に立つ：1 - 情報、2 - 警告、4 - エラー、7 - 監査の失敗、8 - 成功の監査、9 - クリティカル）10 - Verbose Zabbix は Windows イベントログの 情報 フィールドからログの深刻度を取得します。</p>		
	logsource	文字列	ログ

▼	関数	パラメータ	サポートされている値のデータ型
定義			
	最終ログエントリの「ソース」がパラメータと一致するかどうかをチェックします。 0 - 一致しない 1 - 一致する 通常は、Windows イベントログに使用します。例: <code>logsource("VMware Server")</code> .		
max		sec または #num	浮動小数、整数
	期間内の最大（最高）値。最初のパラメータで期間を秒単位で設定するか、収集した値の数（ハッシュマーク # を先頭に付けます）で設定します。 Zabbix 1.8.2 以降では、この関数は、2番目の選択可能なパラメータ <code>time_shift</code> をサポートしています。使用例については <code>avg()</code> 関数を参照してください。		
min		sec または #num	浮動小数、整数
	期間内の最小（最低）値。最初のパラメータで期間を秒単位で設定するか、収集した値の数（ハッシュマーク # を先頭に付けます）で設定します。 Zabbix 1.8.2 以降では、この関数は、2番目の選択可能なパラメータ <code>time_shift</code> をサポートしています。使用例については <code>avg()</code> 関数を参照してください。		
nodata		秒数	すべて
	以下の値を返します： 1 - 期間内（秒）にデータを1つも受信しない場合。期間は30秒以上であることが必要です。 0 - それ以外		
now		無視	すべて
	エポック（1970年1月1日00時00分00秒UTC）を起点とした経過秒数を返します。		
prev		無視	浮動小数、整数、文字列、テキスト、ログ
	前回値を返します。パラメータは無視されます。 <code>last(#2)</code> と同じ		
regexp		1番目 - 文字列、2番目 - sec または #num	文字列、ログ、テキスト
	最新（直近）値が正規表現と一致するかどうかをチェックします。パラメータで POSIX 拡張形式 の正規表現を定義します。 2番目の選択可能なパラメータは、秒数または分析する収集値の数です。この場合、複数の値が処理されます。 この関数では大文字と小文字は区別されます。 以下の値を返します： 1 - 見つかった 0 - それ以外		
str		1番目 - 文字列、2番目 - sec または #num	文字列、ログ、テキスト
	最新（直近）値で文字列を検索します。パラメータは検索する文字列を定義します。大文字と小文字は区別されます。 2番目の選択可能なパラメータは、秒数または分析する収集値の数です。この場合、複数の値が処理されます。 以下の値を返します： 1 - 見つかった 0 - それ以外		
strlen		sec または #num	文字列、ログ、テキスト

▼	関数	パラメータ	サポートされている値 のデータ型
	定義		
	文字数（バイトではありません）としての最新（直近）値の長さ。 パラメータは「last関数と同じように機能します（この表の上の方を参照してください）。 例： strlen(0) - strlen(#1) と同じです。 strlen(#3) - 直近3番目の値の長さ strlen(0,86400) - 1日前の直近値の長さ この関数は、Zabbix 1.8.4以降でサポートされています。		
sum	secまたは#num	浮動小数、整数	
	期間内に収集された値の合計値。最初のパラメータで期間を秒単位で設定するか、値の数（ハッシュマーク#を先頭に付けます）で設定します。 Zabbix 1.8.2以降では、この関数は、2番目の選択可能なパラメータ time_shift をサポートしています。使用例についてはavg() 関数を参照してください。		
time	無視	すべて	
	現在の時刻をHHMMSS形式で返します。例：123055		

- 1) すべての関数は、数値型の値のみを返します。例えば、文字列との比較はサポートされていません。
- 2) いくつかの関数は非数値型のパラメータでは使用できません。
- 3) 文字列の引数は二重引用符で囲みます。そうしないと、誤って解釈される可能性があります。

本ページは2014/08/05時点の原文を基にしておりますので、内容は必ずしも最新のものとは限りません。最新の情報は、英語版のZabbix2.2 マニュアルを参照してください。

From:

<https://www.zabbix.com/documentation/2.2/> - Zabbix Documentation 2.2

Permanent link:

<https://www.zabbix.com/documentation/2.2/jp/manual/appendix/triggers/functions>

Last update: 2016/02/27 10:22

